鯨史稿

五

130
6
72

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

鯨鮫史稿

五

130
6
72

東京圖書館
和書門
類 函 架 號 冊
一三〇 五四 七二 六

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

明治十九年一月十六日購求

東京圖書館藏

鯨史稿卷之五

附録第五

漁船 附捕鯨具

船ノ仕込冲道具等ノ説上ノ納屋ニ同シ

追船拾三艘 唐津捕鯨図説拾六艘 一艘代銀五百五拾目

長十尋

横六尺七寸 鯨記

鯨船ニ勢子船ニ云至テ堅固ニ造リタル舟ナ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

リ攝州兵庫ニ淡路屋總右衛門淡路屋與兵衛
ト云両人ノ船匠アリ此者ナラテハ此舟ヲ造
リ得ルモノナシ諸州ニテ用ル鯨船ハ皆此二
人ヨリ造リ出ス所ナリ（以上元雄ニ聞ク所）船ヲ彩色塗
ルヿ桐油ヲ煉（ネ）リ漆トナシ内外ヲ塗ル是美麗
ヲ好ムニ非ス船板ニ水ヲ含セス為ノ（鯨記ニ依ル）
又種種模様ヲ畫キタルハ鯨ヲ怖（ヲド）ス為ナリ鯨
舟物ハ漆ニテ塗ラサリシカアル時板ノ漆ニ
テ塗ルト塗ラサルト二片海上ヲ流レタルニ

塗タル板塗ラサル板ヨリハ流レ行ヿ早シコ
レヲ見テ塗タルハ水離レヨキ故ナリト工夫
シテコレヨリ鯨船塗ルヿニナリシトナリ（長崎ニテ聞ク所）
鯨船漕行ノ早ヿ一晝夜ニ百里餘往年
紀州ノ人喜多島庄右エ門ト云者肥前五島大
寶ト云所ヨリ紀州和歌山ヘ水夫ヲ撰テ飛船
ヲ遣ス三百六十里程ノ海路ヲ六日半ニ往還
ス今ニ是ヲ證據トス風波ヲ厭ハス船覆ルヿ
有テモ水夫懼レス水ヲ繰リ捨テ船ヲ泛ヘ櫓

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

櫂ヲ流スヿナク怪我ヲスル者モナシ 鯨記ニ依ル

櫓八梃　一梃代銀三拾目程

前櫓　脇櫓　ハツサキ　艫櫓　コヒシ 鯨記

柁(カヂ)一

帆柱一本

四投帆

凡ソ帆ハ三幅ヲ一段トス一幅ノ廿法先ツハ鯨尺七廿ヲ以テ定リトス然レハ三幅ニテハ二尺一廿 一幅ノ廿法舟ニヨリテ異同アリ然レ𪜈大抵七廿ヲ定法トス故ニ今七廿ヲ以テ是ヲ計ル 四段ノ幅凡ソ八尺四廿ナリ

海丈(タケ)一本

苫四枚

櫓橛(クイ)

入(レ)子

床ニツキタルヲ櫓橛ト云櫓ニツキタルヲ入子ト云

水桶二

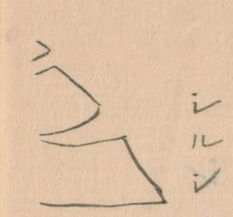
釜二
風呂一
鉈(ナタ)一挺
鑿(ノミ)一挺

此二器ハ櫓橛入子ノ損シタルトキノ為ニ備フ櫓橛入子ハ船ヲ使フノ要具ナリ若シ損壊スルサハ船ヲシテ意ノ如ク一サモ進退セシムルヿ能ハス故ニ尤損壊ヲ慎ムナリ

シルシ一

白木綿三幅ニテ造ル長サ三尺アリ上ノ方一尺計リ縫(ヲヒ)合セ夫ヨリ下ハ縫ハス上ニハ舌五アリ中ト両端トノ舌ハ白シ間ノ二ツハ赤シ細キ竹ヲ此舌ニ貫キ中程ヲ苧(ヲ)縄ニテ結ヒ竿ノ頭エ繫(ツナ)ク生月島益冨ノ法又唐津捕鯨図説ニ見エタルシルシハ大抵上ノシルシノ如クニシテ中ノ一幅ヲ短クス図第六巻ニ見エタリ

追船



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

小指一

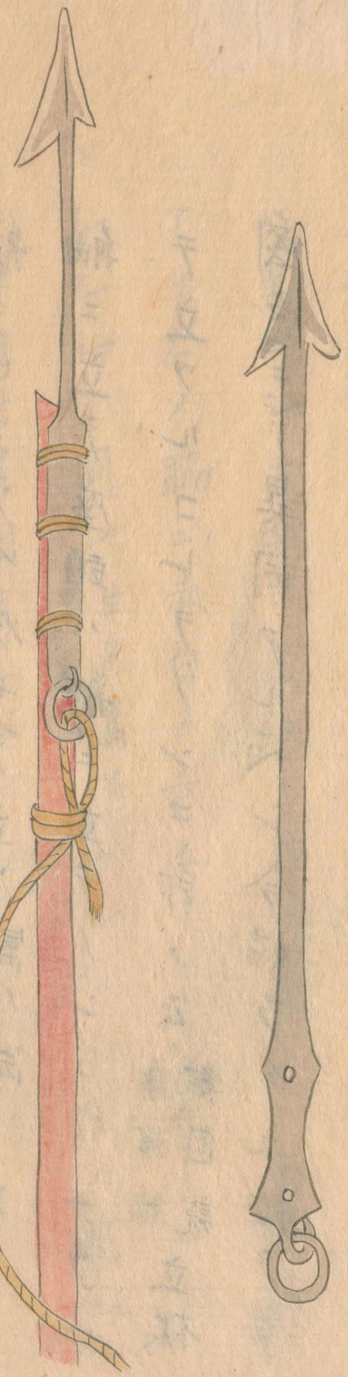
木綿一幅ニテ造ル長サ一尺五廿程アリ地ハ黒ニシテ中ニ家紋ヲ卅ケ其下ニ子持筋アリ右ノ脇ニ赤白ノ舌五アリ白赤ノ卅様シルシニ同シ（生月嶌益冨ノ法）シルシ小指ノ製組ニヨリテ異同アルベシ

竿一本

長サ七尺許リシルシヲ立ルニ用ユシルシノ立様ハ勢美ナレハシルシヲ上ニシ小指ヲ下ニシテ表ニ立ツ座頭ハ右ノ如ニメ舳（トモ）ニ立ツ長須ハ小指ヲ上ニシシルシヲ下ニメ舳ニ立ツ兒鯨ハ勢美ノ如ニシテ艫（ヘ）ニヒツソイ伏セテ立ツ（生月島益冨ノ法）脊美ハ舳ニ立テ座頭ハ艫ニ立テノンコハナラヘテ立ツルコレヲノンコ印ト云（唐津捕鯨図説）立様國々ニテ異同アルベシ今姑ラク二法ヲ挙ク

萬鋅（モリ）一本　代銭二貫五百文

重サ一貫目餘 唐津捕鯨図説



鉾頭長サ六寸許り鉄柄造り附ケ長サ三尺許り樫（カシ）荒木ノ柄長八尺許り廻り七寸許り

鐵柄ノ末ニ鐶アリ生（ナマ）鉄（カネ）ニテ曲ル様ニ打タル鐶ナリ生鉄以下唐津捕鯨図説此鐶ニ麻縄ヲ属ケ柄ニ巻付縄ハ

根麻半房　長九尋　掛目一貫二百五拾目

加賀麻一房　長十八尋　掛目二貫五百目

レフセ一房　長十八尋　掛目一貫五百目

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72　ガラス使用

先根麻ヲ属ケ次ニ加賀麻次ニシラセヲ継
クシラセハ畔ニトリテ一房ヨリ三四房マ
テツクリアリ以上大村深澤ノ法又
根苧一筋
但シ加賀苧ヨリ少シ太シ
加賀苧二筋
但根苧ヨリ少シ太シ
シラセ二筋
但大サ太縄位アリ菖縄十リ

右五筋長サ凡百二尋
凡千タル所ノ重サ三百二十目位湿レテハ甚
タ重シ以上唐津補録図説

早銛二本　代銀二匁

銛頭長サ四寸許リ鐵ノ柄長サ二尺餘鉄ノ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

柄ノ末ニ鐶アリ

樫(カシ)荒木ノ柄長サ八尺許リ剣ノ柄ヨリ少シ細シ太サ一寸三四分ノ角ニ少シ丸ミアリ

目釘二本苧ニテ二所結フ突出シ縄二十尋許リ柄ニ巻付ク藁縄ニテ浮モノナリ暗ニヨリテ早ヲ打縄ヲ捨ルヨアルユヘナリ剣ノ

以下唐津捕鯨図説

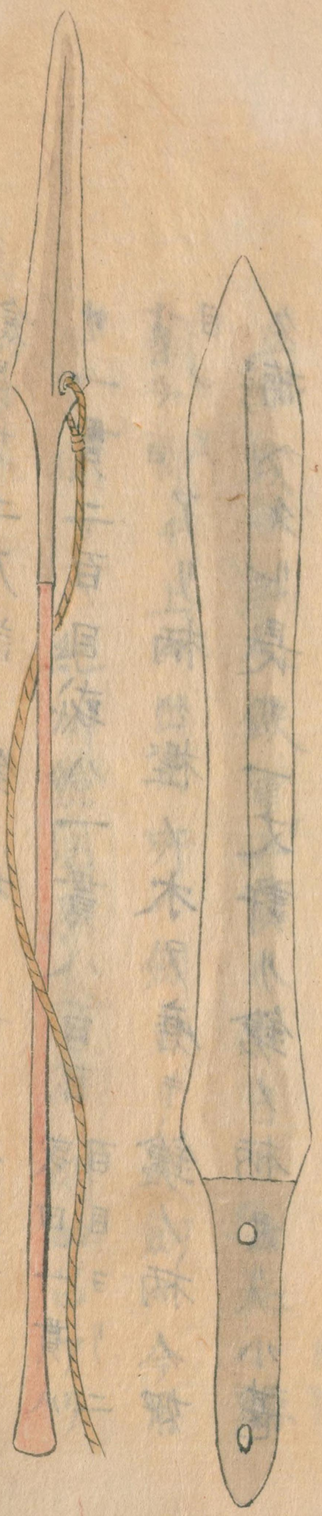
鯨記ニ曰ク失縄十七尋其末ニ葛縄七八尋續テ羽指是ヲ投レハ飛ヲ十三四間失縄ハ

小指程ノ綱ナリ

鉾ハ萬早ニ通アリ用ルトキハ先早ヲ属ケ次ニ萬ヲ付ルナリ突様ニ上手下手アリ上手ノ付タルハ鋒(ホコサキ)手前ニ向キ柄ハ向エ開クヤウニ突ユヘ柄ノ縄ヲ扣ヘ居レハ鯨ノ通動ニ随テ鉾次第ニユリ込テ抜ケス下手ハ鋒向フエ向クヤウニ突ユヘ綱ヲ強ク牽トキ或ハ抜ルヿモアリ柄ハ一度切ニテ廃タルナリ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

右ノ銛ノ外ニ昔ハ新銛二本萬ノ三割小十
ナリ小太郎銛二本萬ノ半分十リ柄ハ樫ノ木
ノ柄ハコレヲ止ム村田元雄ノ柄十リ杉アリ近世
ニ聞ク今ハ用ヒス大森シメ森大萬森長五尺鉄重一貫
目是ニ苧綱ヲ付鯨半死ノ時突立若海底デンチ
ニ沉メハ是ヲ以テ引上ル為十リ
ウ森明磨ノ比大村ノ深澤義太夫之等アリ
本朝食鑑ニ七銛數種ヲ載タリ西海ハ今皆
用ヒズタト早萬ニ種ノ猟ヲノミ用ユ紀州
鯨圖原本ニハ銛七品ヲ著スハヤモリサシ



ソエカクサバ大ミロツ小ヨロツ五百目ツ
キコミ十リ是ハ紀州ニテ享保ノ比用シ銛
ヒ十リ今モ用ヰ否ハ未タ之ヲ聞カズ

剣一振　代銀三拾目

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

剣長サ二尺許リ鉄ノ柄ノ長サ二尺許リ重サ一貫二百目或ハ一貫八百目或ハ一貫五百目アリ柄ハ樫ノ木ヲ磨キ鎗ノ柄ノ如ク拵(コシラ)ヘタル長サ一丈許リ鎗ノ柄ヨリハ甚タ太シテ手元ヲ細クス剣ノ下ノ方ニ突出ノ縄ヲ附クル孔アリ鎗ノ以下唐津捕鯨図説

鯨記ニ曰ク此綱ヲ突出ト云長サ十五尋小指程ノ物ナリ

銛ト剣トハ何レモ鯨ヲ刺ス用ル器ナリ

銛ハ一遍ツキタルマヽニテ抜ス剣ハ一遍ニ限ラス幾度モ抜キテ刺ス畢竟トヽメヲサス意ナリ

鯨記ニ四剣アリ其中ニ大剣長サ四尺餘幅三寸五分鉄重サ二貫五百目小鯨剣長サ二尺五寸或ハ三尺鉄重サ一貫八百目ト云此小鯨剣ハ即チ上ニ出ス所ノ剣ナリ大剣ハ今用ルヲ聞カス紀州鯨図原本ニハ剣四品アリト云ヘリ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

手形切庖丁

長サ八寸幅一寸餘鞘アリ柄四寸位苧ニテ巻クナリ腰ニ指スヤウニ拵タルナリ

図説

カリ棒

此棒ヲ左右ノ手ニ持テ聲ヲカケナガラ左右ノ舷ヲ叩キテ鯨ヲ驅ル初ハ大鼓ヲ伐テ鯨ヲ追タリシニ夫ニテハ鯨モ怖ヲヌ故カリ棒ニ代タリ獵棒ニテ舷ヲ敲クハ聲ヲ水中ニ打込ムヘ水底ヨリ響キ大鼓ハ船中ニテ叩クヘ聲外ニ散リテ水底ニハ響カヌト見エタリ

唐津捕鯨

加賀苧五房

シテ七三房

此二ノ苧縄ハ早萬ノ用ニ備ルナリ

樫米二日分鯨記

右ハ鯨船一艘ノ仕込

此代銀船尺ニ凡壱貫七百目程

此乗込ノ人数羽差一人水夫十二人

唐津捕鯨図説 或ハ十四人 鯨記 親父(ヲヤヂ)船ニハ増

水主一人乗コレヲ櫓押ト云 唐津捕鯨図説

鯨記ニ船一艘ニ早森督早太郎劔八

本森二本劔大小二ツ失縄二房葛縄

二房シラセ縄百尋漕網胴縄二日ノ

糧米ヲ持テ乗ルト云ヘリ

雙海(サウカイ)船三結(ムスビ)

長サ八尋三尺

横一丈程 鯨記

百石積ノ船 唐津捕鯨図説 二艘ノ一結ト云

櫓八梃立ナリ

網凡百八段

一艘網十八段

一結網三十六段

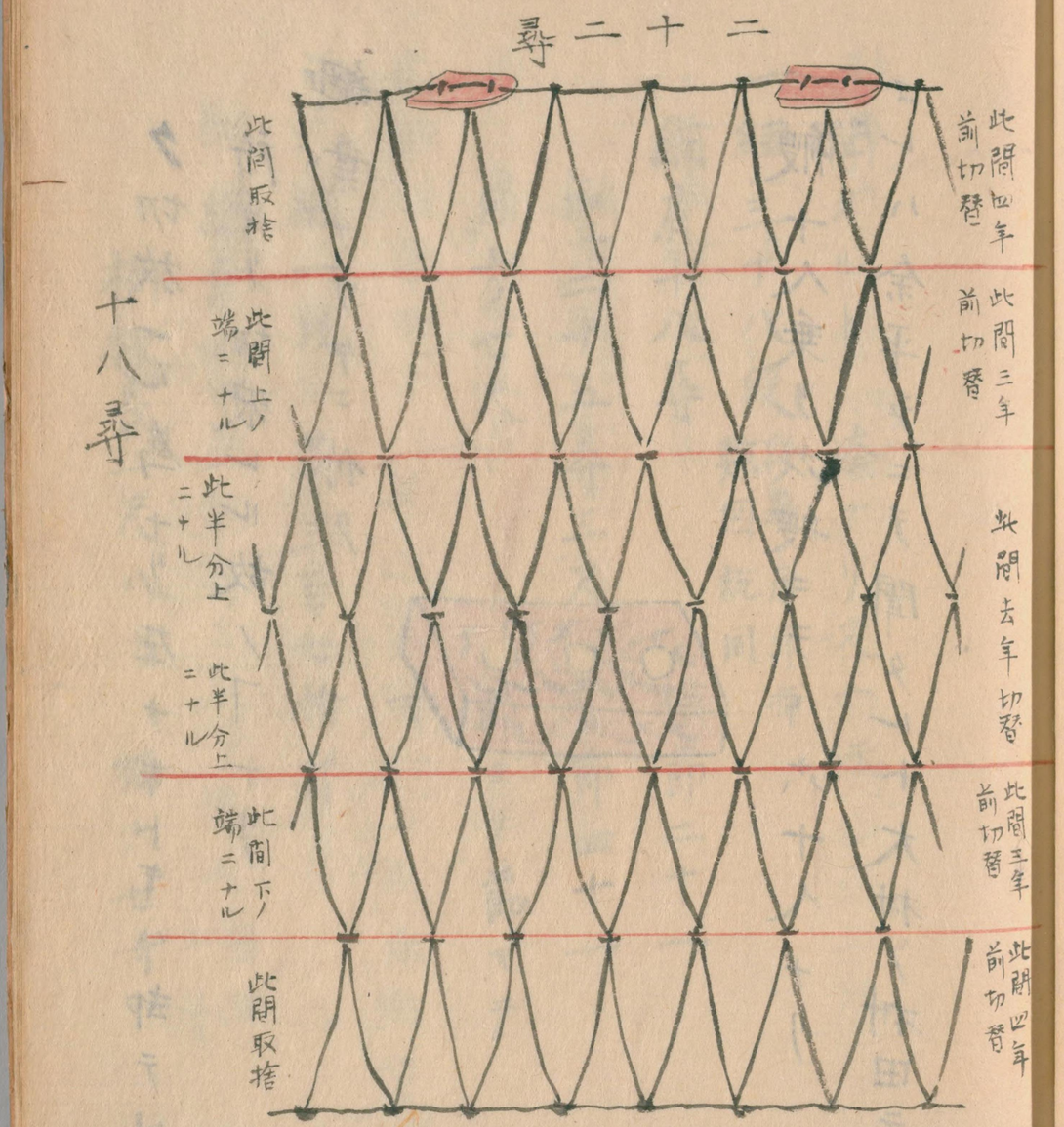
網外代二十段程

雙海舩

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

竪十八尋
横二十二尋
目六尺三寸
網ハ細引三股ノ縄ニテ作リ目ハ六尺三寸
アリ網ノ作リ様ハ先竪十八尋ヲ三分ニシ
テ一年二一分ツヽ仕替四年目ニハ残ラス
カハル其仕替ヤウハ真中ヘ切替ルナリナ
ゼナレバ網ノ張タルトキ海底ノ岩石ナド
ヘ網ノカヽリタルハ鯨ノ運動ニ従ヒ皆早



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

ク切放レル為ナリ左ナキトキハ却テ外ノ
所ヨリ切破レル故ノ下ナリ
網ノ葉ヲウケニ付ク

一艘十人乗リ六艘ニテハ六十人ナリ
コレハ余平戸ニテ聞タルト大村ノ村田元雄

二聞ダルトノ添ナリ又一法
一結三十八段段數唐津捕
鯨図説同
網肩十八尋　横節二十一
竪二十五尋三尺　竪節四十一
目方七尺　節ヨリ節マテ
一網一段　苧三百七拾斤　寸
網ノ葉四十二
桐板長一尺八寸　幅六七寸

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

厚サ三寸

網ヲ貫ク横縄椶櫚ノ皮ヲ用ニ以上鯨記

右二法ハ西海ノ浜ナリ又一法

海鵜網者四十二年已前始テ作ル之ヲ用ヲ麻縄ヲ製ス之ヲ

長サ三十五尋　幅十尋

縄太サ径一寸三分各合テ三縄ヲ

十尋ノ間有二七目一

一目大サ方七尺

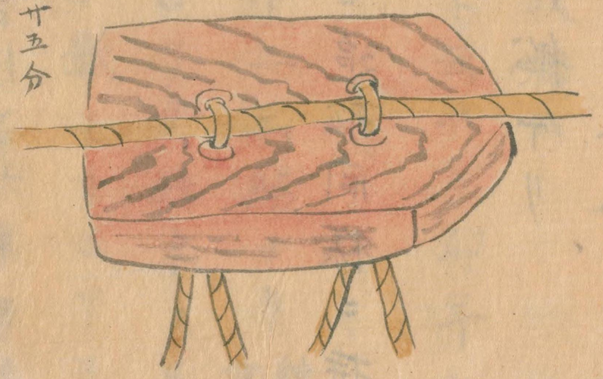
縫合テ為二百尋一所縫合以テ藁縄ヲ縛ル之ヲ所以然ル則従二海

鵜ノ動揺一草縄自ラ断エ纏ノ二于海鵜一也如レ此而後以鎗ヲ刺

標ノ長一尺許

十尋所ノ一標ヲ

此縄大サ径三十五分



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

殺之網乃為不遠走去也 紀州鯨図原本〇享保六年ヨリ四十二年前ハ元禄三年ニ当ル

コレ紀州ノ法ナリ

雙海附六艘

鯨船ノ如シ道具モ追船同様ニ拵乗ルハ梃立ナリ 唐津捕鯨図説

双海ノ牽ク為メノ船ナリ

牽船ハ鯨船ヲ兼用ニ水夫十二人 鯨記

右ノ外ニ鯨記ニ

添網船一艘櫓八梃水夫十人

トアリ又唐津捕鯨図説ニモ

増船一艘網十六段積ム

此船卯年ヨリ増ト云ヘリ卯年ハ蓋明和八年

辛卯ノ歳ナリ

一組ニ十結或ハ十二三結ナリ 鯨記

桜ニ双海ハ處ニヨリテ往来スル鯨魚ノ大小

アレハ自ラ双海ヲ數チカヒアリ壹岐ノ前海

勝本五嶋ノ魚目有川等ハ六結ナリ平戸ノ生

月唐津ノ小川島ハ四結ナリ其外ハ三結或ハ
二結ナリ

持雙(モツサウ)二艘

鯨船ノ如クニシテ少シ大キク丈夫ニ作ル羽
差此船ニ乗リ移リテ劒ヲ打ツナリ 唐津捕鯨図説
此船ハ鯨ヲ捕(ヒ)得タルトキ持(モツ)雙二艘ニ上本ノ
柱ヲワタシ置キ鯨ノ潮吹ヲ切リ又上ノ胴縄
下ノ胴縄ヲ廻シテ此柱ニクヽリ付ル為ノ船
ナリ

扣持(ヒカエノモツ)雙船

惣テ持雙ニ同シ定リテハ持雙二艘ノ外ハイ
ラヌヿナレドモ鯨ニヨリテ船楺(モミ)摧(クダ)クヿアレ
ハ其時付替ル為ニ設ルナリ
右ノ外唐津捕鯨圖説ニハ
チロリ船二艘六挺立一艘ニ網六段一結十二
段ナリ鯨船ノ如シ卯ノ年ヨリ止ムト云又
網三十六段
一反ニ附加賀苧七十二房或ハ七十三房

ナリ
一房ノ重サ七百三十目ヨリ五六十目迄
ナリ
一房七百五十目ニシテ壱段七十二房ニ
積リテ
百三十六段ニテハ苧四万三千八百七十
五斤ナリ 唐津捕鯨図説
桉ニ此筭用誤リナリ圖説上ニ已ニ雙海一艘
十九段一結三拾八段ト云ヘハ此ニテ三十
六段ト云ハ誤リナリ夫故百三十六枚ト云モ
一結三十六段ノ筭用ナリ一結三十八段ニテ
ハ凡百四十二段トナルナリ是又増舩一艘網
十六段チロリ十二段ヲ加ヘテノ筭用ナリ
又唐津捕鯨圖説ニ
網十段是ハ餘計ニ設ルナリ
惣舩数四十艘ト云ヘリ
附録西洋人氷海ニ行キテ鯨ヲ捕ルノ舩人
数ヲ擧ク

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

本船一艘
ヒュプネル曰其船ノ大サ通例二三百トンナリ
一魚ヲ獲レハ費用ヲ償フニ足ル其餘皆利
十リ
コムマンデイル　船頭
枝船三艘
人数六人
ハルボニール
羽差
船ノ艫ニアリ

ステールマン
船ノ舳(トモ)ニアリ
楫取ヲ兼ヌ
レインレキートトル
綱ヲ止ムル者三人
綱ヲ延ハス車ヲ主
水手一人
槽ヲ押ス
ハルプイン
ランス
右二器ハ鯨ヲ刺ス具ニテ銛(モリ)ノ類ト見
エタリ

漁場職掌（リヤウバノヤクノ）

役人ノ名目給銀等ノ事大村ノ村田元雄ニ聞タル所ヲ本トシ唐津捕鯨圖説ヲ參ノエテ記ス

大別當一人　給銀壹貫目　七百目網陣給分
納屋方總支配人　十リ組陣ト云ハ鯨漁ノアル　三百目夏陣給分
間十リ夏陣ト云ハ漁休ノ間ナリ給銀西海ハ
皆八匁ト云テ八拾文ヲ一匁トスタヽ生月バ
カリ銀目十リ捕鯨ノ時追船ニ大別當乘ルヿ

アレハコレヲ役人船ト云

別當

コレハ小納屋コトニアリ納屋三ツナレハ三人而ツナレハ四人ナリ

小部頭兼道具造一人　給銀七百目

腰掛ヲ設ケ其上ニ腰ヲ掛テ諸方エ目ヲ賦ル役ナレハ即千目ナリ

帳役二人　給銀五百目

日雇帳ナリ日雇ノ世話賃銭ノ請拂ヲスル

役ナリ

魚店掛二人　給銀三百目

魚切込タル分ノ指図ヲスル役ナリ

釜掛四人或ハ釜ノ後ロト云ニ人

魚店油煎スル所并ノ世話ヲスル役ナリ

奥小部八人

七八人バカリ鯨掛取タル時吟味シ薪ヲ世話ヲスル役ナリ

小部頭ヨリ奥小部マテコレヲ目代十五人

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72　ガラス使用

魚切親父一人
道具造ノ差図ヲ處々ニ傳エ庖丁ヲ立ツル等
ノ世話ヲスル役ナリ
本魚切六人
五六人バカリ鯨取タル時納屋前ニテ魚ヲ脊
ニ乗リテ働クモノナリ
中切六人
五六人バカリ濱ニテ小切ヲスルナリ

網指二人或ハ四人
處々ノ轆轤ニ綱ヲ属ル役ナリ或ハ綱ヲ盗ム
モノアル故綱ノ出納ヲ嚴シク吟味ス
飯焼二人或ハ四人
即チ飯ヲ焼クモノナリ
追廻二人
定リタル職分ナク諸事ニ係ルナリ
火番二人
右ハ納屋掛リノ役人ナリ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

羽差　給銀壱貫目ヨリ二百五十目マテ

アリ　又此外ニ鯨ノ肉ヲモ所務スル十

リ

鯨ノ突ヲスル役ナリ其中ニ役羽差三人ア

リ

一番親父（ヲヤヂ）一人

二番親父一人

三番親父一人

此三人ノ親父ハ沖場ノ惣頭ナリ沖場ニテ

ハ麾（ザイ）ヲ執リテ指揮ス鯨追ヤウノ善（ヨ）シアレ鯨

トルトヲヌ皆此三人ノ計ヒニ係レハ至テ

重キ役ナリ夫故組方ニテ権威アリテ往来

常ニ羽指一両人ヲ従（シタ）フトゾ年始ニ鯨組ノ

遣スハ此三人ノ親父並ニ継テ

親父ニナルベキ羽差ノミナリ

鯨記ニ曰ク羽指ノ功者強力者ヲ沖合ト云

沖合ハ一組ニ二人アリテ萬事支配ス

御戸（ミト）親父（ヲヤヂ）一人

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72　ガラス使用

此親父ハ雙海ノ頭人ナリ麾ヲ執リ網ヲ打
ヲヲ下知スル故ニ網打様ノヨシ悪ハ此親父
ニ係レリ網ヲ打ニ先廻(キリニトギ)御戸地張(ジバリ)ト云アリ
此親父御戸ノ舩ニ乗(ル)故御戸親父ト云

羽差見習

惣テ羽差ノスル程ノコヲ見習ヲスルナリ
西國ニテ羽差ハ大村ノ者ヲ雇フナリ大村入
海ノ有故ニレヲ島内ト云漁体ニテモ常ニ舩
ヲ其侭乗行キ漁始ルトキハ又乗リ來ルナリ

網ノ掃(ニレヲ)并ノコヲモスルト云

鯨記ニ曰ク鯨取漁人ハ島人ノ中ニテモ至テ
賤キ者ト聞ユレト左ニハアラズ羽差ナトハ
常ニ碁將碁誹諧生花立花ノ樂ミ并ニテ他行
ニハ必ス草履取ヲ召連レ其形容漁人ノ体ニ
ハ十キモノナリ

役羽差四人

若羽差二拾六人

凡ソ三拾人唐津捕鯨図説ニ見エタリ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

水夫

船中ニテ櫓ヲ押スヨリ始メ何事ニヨラズ働ラク者ナリ

追船十三艘

此水夫百五拾九人但シ一艘ニ水夫十二人親父船三艘ニハ増水夫一人充乗ルナリ

雙海（サウカイ）船六艘

此水夫七十三人但シ一艘　水夫十二人

御戸親父ノ船増水夫一人ノ積リナリ

雙海附六艘

此水夫七拾二人但シ一艘拾貳人乗ルナリ

持雙船四艘

此水夫四拾八人但シ一艘ニ拾二人乗ル

十リ

右船數凡二拾九艘

此水夫凡三百五拾二人

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72　　ガラス使用

是ハ西國ニテ聞タル所ニテ水夫乗込ノ大
畧ナリ此人數モ舟數ニヨリテ違ヒアルベシ
唐津捕鯨圖説ニ載セタルゴトク追舩十六艘
ナルトキハ人數モ夫ニツレテ増スコトナリ
備後ノ國田島トカ云島ハヨキ水夫所ノアル
處ニテ年々西國ヨリ水夫ヲ雇ニ來リ漁終リ
テモ其給銀ハ水夫所ヘ相對ニハ渡サス數十
百人ノ給分ヲ一同ニ舩ニ積ミ此島ニ來リテ
嶋役人ニ引渡スヨシナリ此ハ水夫ニ直ニ
給銀ヲ渡シテ水夫或ハ酒色并ニ使ヒ捨ルコ
モアルトキハ島ノ役人手懲スレハ再ヒ雇フ
コノナルヤシキヲ慮リテカクハ為コナリト
云此島ハ昔ヨリヨキ水夫アルト見エテ島原
一揆ノ起リシ時伊豫ノ大洲侯此嶋ノ水夫ヲ
残ラス雇置テ島原討手ノ請シテアリト云
中國ニテ聞タル
賴某ノ話ヲ記ス

右ハ沖場ノ人數ナリ

魚見

唐津捕鯨圖說

小川島山見拾五人

加唐島山見拾五人

土器崎山見拾二人

アリ是ニテ魚見ノ大數ヲ知ベシ

此外ニ

大工　鍛冶等ノ職人モアリ又

外科本道ノ醫者モ抱ヘ置クナリ

惣人數四百八十六人

目代ノ者并ニ羽差水主納屋人共ニ平日定リノ人數ナリ漢事ノ節ハ此外ニ日雇ヲ入唐津捕鯨

図說

又我西國ニテ聞タルハ

惣人數五百人

三百五拾人ハ定抱

百五拾人ハ日雇ヲ入

給分人々不同

日雇錢五十文

鯨肉　斤

日雇ハ獵ノ多少ニヨリテ日々不同ナリ今

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

其大數ヲ挙ク

飯米百三拾七石三斗二升八合

内九拾六石一斗八合

定抱三百五十人分

四拾一石二斗二升

日雇百五拾人分

右ハ小寒十日前ヨリ彼岸十日前マテ六十日組陣ノ間飯米ノ積リナリ

一日分二石二斗九升

一石六斗三合

定抱三百五拾人

六斗八升七合

日雇百五十人

升法九一六ヲ用ユ是ハ大村鯨組扶持米ヲ渡スノ升法ナリ

此ユト大村ノ益冨商某ニ聞ク

右ハ組陣飯米ノ大畧ナリ

唐津捕鯨圖説ニ曰舩一艘ニテ羽指ノ取前ハ魚ノ大小ニヨリテ斤目違フ之斤目ヲ二ツ割ニシテ一ツ分羽指残ル一ツ分ハ十二人ヲ水主庇カ取ナリ

桜ニ羽指氏ノ所務脊美ハ一ノ山リウゴ二ノ山脊美兒鯨ハ腹皮座頭長須ハイボ脇皮ナリ（コレ亦唐津捕鯨図説ニ出タリ）

鯨部總稱（クヂラクミノ ミヤウモノ）

コレハ西國ニテ聞タル所ヘ鯨記ノ説ヲ參エテ記ス

古ヘハ鯨ヲ弓ニテ躰テ取シヿナレト別ニ弓組ノ名アリ氏聞エス二百餘年前始テ舟数艘ニテ鉾ヲ以テ突テ取シヨリ突組ト云ヿ起レリ其後又網ヲ折廻シテ取ルヤウニナリテヨリ網組ト云ヿアリ今ハコレヲ合セ總テ称シテ鯨組トハ云ナリ鯨組ハ鯨ノ通ル海辺ノ場所ヲ見立九月

中旬ヨリ漢人ヲ抱ヘ集メ小屋ヲイクツモ建並
ヘソレソレノ諸道具ヲ取調出張スルヲ云鯨ノ通以下鯨記ノ文 其漢スルノ間ヲ組陣ト云漢休ニテヨリ
ハ勘定取調ヘ船網ナト損壊ノ物ハ取繕ヒ又ハ
拵継スル間ヲ夏陣ト云組陣ノ内ヲ分ツテ二ツ
トシ小寒十日前ヨリ彼岸十日前マテヲ冬組ト
云彼岸十日前ヨリ春土用ノ後二十日マテヲ春
組ト云鯨組ノ長ヲ旦那ト云ナリ

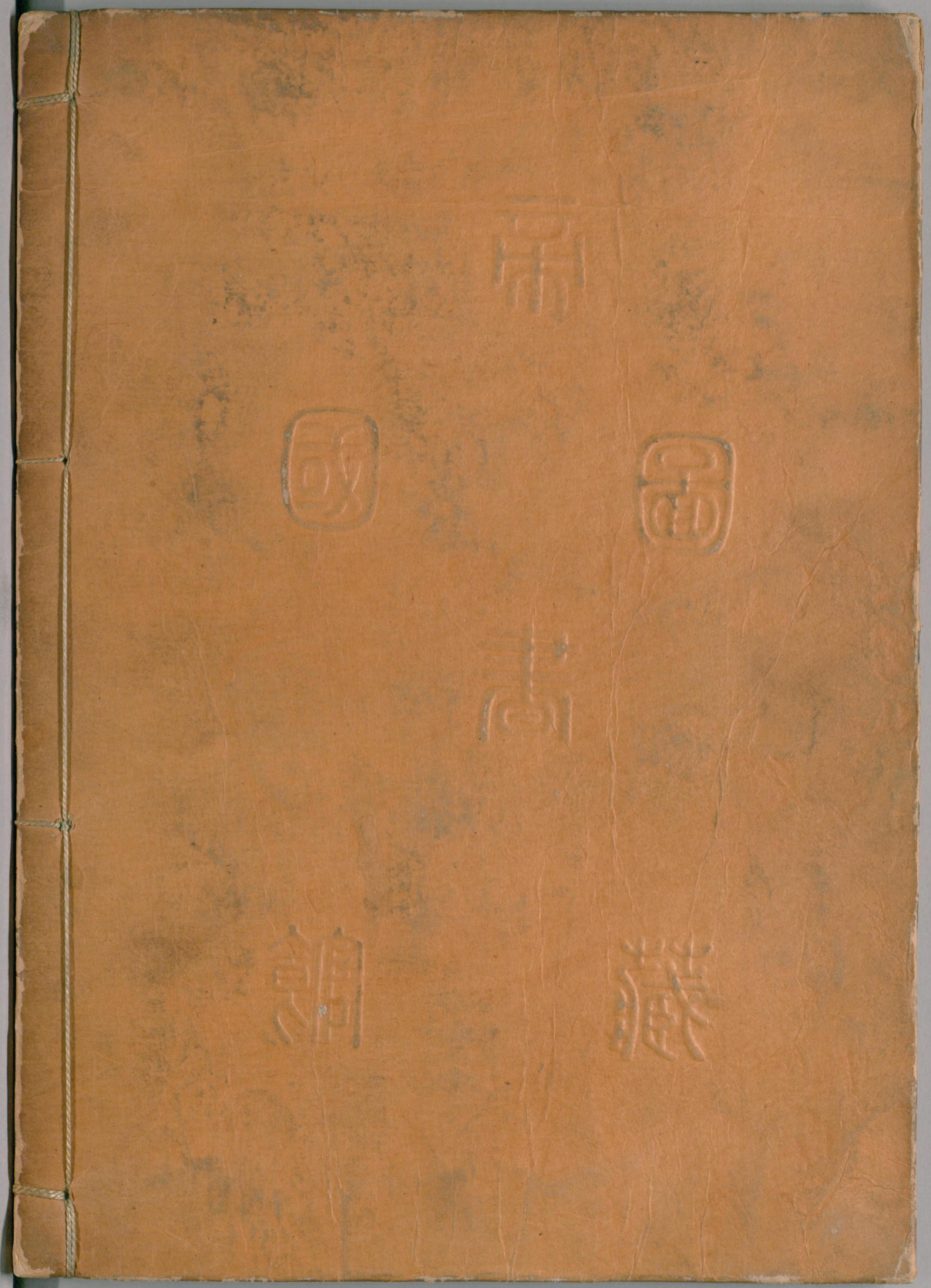
鯨史稿巻之五

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

130
6
72

国立国会図書館　　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用